HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	遺伝カウンセリング来談時のメタ認知状態が不安レベルに与える影響 ： 来談者の特性を踏まえた検討［全文の要約］
Author(s)	柴田, 有花
Description	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。 配架番号：2695 他
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(医学)
Dissertation Number	甲第14953号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/86128
Type	doctoral thesis
File Information	SHIBATA_Yuka_summary.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学　位　論　文　（ 要 約 ）

遺伝カウンセリング来談時のメタ認知状態が
不安レベルに与える影響～来談者の特性を踏まえた検討～
（Effects of metacognitive status on anxiety level
at genetic counseling visits based on the characteristics of clients）

２０２２ 年　３ 月

北 海 道 大 学

柴　田　有　花

学　位　論　文　（ 要 約 ）

遺伝カウンセリング来談時のメタ認知状態が
不安レベルに与える影響～来談者の特性を踏まえた検討～
（Effects of metacognitive status on anxiety level
at genetic counseling visits based on the characteristics of clients）

２０２２ 年　３ 月

北 海 道 大 学

柴　田　有　花

【背景と目的】

遺伝カウンセリング：Genetic counseling（GC）とは、疾患の遺伝学的関与について、医学的影響・心理的影響および家族への影響を人々が理解し、それに適応していくことを助けるプロセスであり、来談者の状況把握、疾患や遺伝学的検査に関する情報提供、心理社会的支援が求められる。GC 来談者の多くは、何らかのライフイベントにより心理社会的ストレスを受けた時に遺伝的リスクを再認知し、感情の変化を自覚し来談する。一方で、ライフイベントに対する認知の種類や程度、感情の変化の程度は個々によって異なることから、GC ではこれらの状態をよく理解した上で対応することが重要であると考えられる。感情の変化について、GC 来談者はしばしば来談時に不安を抱いていることが示されており、GC 来談者の不安状態に注目した研究が多く報告されている。一方で、どのような思考スタイルを経て不安を感じているかについて言及した研究は少ない。

不適切な思考スタイルをもつ原因として、メタ認知（知覚・判断・記憶・思考といった認知的活動に対する高次の認知）の影響が知られている。メタ認知状態は、精神疾患患者や慢性疾患患者の心理的障害と関連することが示されており、さらには患者のみならず、神経疾患の介護者やがん患者家族などの心理的負担にも影響することが報告されているが、GC 来談者を対象に調査した報告はない。GC 来談者の不安状態がメタ認知状態に影響するものであった場合、メタ認知状態を対象とした新たな GC 手法が検討できる可能性がある。よって本研究では、GC 来談者の不安状態とメタ認知状態の関連性について、来談者の特性を踏まえ検討した。

【対象と方法】

対象者は、2018 年 11 月から 2021 年 3 月までに北海道大学病院臨床遺伝子診療部に初回来談し、GC を実施した 106 名である。メタ認知状態については、一般成人と比較検討するために、認知機能が正常である、20 歳以上 79 歳以下の成人男女 127 名をコントロール群に設定した。

調査項目は、来談者特性、来談時の不安状態、メタ認知状態である。不安状態については、状態 - 特性不安尺度：State-trait anxiety inventory-Form JYZ（新版 STAI）を用い、5 段階評価を行い、段階 1〜3 を低不安群、段階 4,5 を高不安群に判定した。メタ認知状態は、心配や侵入思考といった精神障害に関するメタ認知状態を測定するメタ認知質問紙短縮版：Metacognitive questionnaire-30（MCQ-30）であり、2007 年に山田らによって開発された日本語訳版（山田版 MCQ-30）を用い測定した。来談時の特性については、先行して実施した調査を参考に、GC 診療録に記載された情報を項目ごとに分類した。該当項目は、GC 初回来談時の年齢、性別、患者本人か否か、妊娠の有無、婚姻状態、子の有無、家族歴の有無、疾患領域、来談目的、来談契機、とし

た。不安状態については、状態不安と来談者特性およびメタ認知状態に関連があるかを分析し、関連があった項目について多変量解析を行った。さらに副次的評価として、GC 来談者のメタ認知状態について、コントロール群と比較検討した。

【結果】

GC 来談者の平均年齢は 42.47 歳で、男性が 18 名（17%）、女性が 88 名（83%）であった。コントロール群の平均年齢は 49.59 歳で、男性が 61 名（48%）、女性が 66 名（52%）であり、GC 来談者群とコントロール群のどちらにおいても、各年代間・性別間でメタ認知状態に有意な差は認められなかった。

GC 来談者の状態不安は、高不安状態にある割合が 34.9%であり、一般成人と比較しやや多かった一方、特性不安では 11.3%と少なかった。来談者特性別に分析した結果、状態不安については、患者本人ではなく血縁者である場合、家族歴がある場合に、高不安状態にある割合が有意に多かった。また、ライフイベントを契機に来談した場合も多くなる傾向があった。一方、特性不安については、いずれの来談者特性においても有意な差は認められなかった。メタ認知状態との関連について分析した結果、山田版 MCQ-30 を構成する 5 つの下位尺度のうち、心配の制御不能性や危険に関するネガティブな信念：Negative beliefs about thoughts concerning uncontrollability and danger（Neg）のみ、高不安状態であることと関連を示した。これらの結果を元に、患者本人か血縁者か、家族歴の有無、Neg の点数を説明変数として多変量解析を実施した結果、状態不安を高める独立規定因子として血縁者であることや家族歴があることは選択されず、Neg のみが選択された。

GC 来談者のメタ認知状態については、コントロール群と比較し点数が有意に低く、中でも、心配についてのポジティブな信念、認知的自信の低さ、認知的自己意識の 3 つの下位尺度で有意に低い傾向を示した。来談者特性別のメタ認知状態については、いずれにおいても有意な差は認められなかった。

【考察】

GC 来談者の状態不安は、一般成人による基準値と比較し、高不安群に該当する割合がやや多かった一方、特性不安は同割合が少なかった。これより、GC 来談者が抱く不安は一過性の状況反応であり、GC 来談者では普段より不安を感じやすい者の割合が少ないことが明らかとなった。来談者特性別にみると、血縁者である場合、家族歴がある場合で状態不安が高不安群に該当する割合が多くなったが、これらは先行研究と異なる結果を示した。要因として、本研究と先行研究では異なる水準で不安状態を評価していたことや、研究対象とした疾患領域の割合が異なっていたことなどが考えられた。

状態不安と、来談者特性およびメタ認知状態との関連を分析した結果、Neg のみが GC 来談者の状態不安を高める独立規定因子として選択され、GC 来談者の状態不安は来談者特性よりもメタ認知状態に大きく依存することが示された。この結果より、状態不安が高い集団に対しては、メタ認知を対象とした介入が有効である可能性が示唆された。メタ認知への介入手段としてメタ認知療法が存在し、精神疾患患者や大学生のストレスおよび心配へのメタ認知に効果があることが報告されている。今後、GC 来談者に対する心理社会的支援として、メタ認知療法に沿った介入が検討される。

GC 来談者のメタ認知状態を調査した既報はなく、本研究が初めての報告である。メタ認知状態は一般成人と比較し有意に低かった。メタ認知状態と気質・性格特性の関連を示した報告では、“認知的自信の低さ”と性格次元の 1 つである“自己志向”（個人の目的や価値観にしたがい行動調整する能力）に最も大きな負の相関があると示されていることから、GC 来談者は、自己志向が高い傾向にある可能性が示唆される。気質は遺伝的影響を受けやすい一方で、性格は後天的な環境や学習の影響を受けやすく、メタ認知状態は性格との関連が強いと想定されている。GC 来談者のメタ認知状態は一般成人とは異なる特徴を示していたが、この結果は、来談者が環境などの後天的な影響を受けて、GC を求める性格になった可能性を示唆している。今後、GC 来談者の性格特性を調査することで、来談者が GC を求めるに至った環境的要因を検討する一助となることが期待される。ひいては今後遺伝リテラシーの向上を目指した取り組みを検討する上で、メタ認知状態への介入が検討できる可能性がある。

【結論】

本研究により、GC 来談者の状態不安は、来談者特性よりも心配の制御不能性や危険に関するネガティブな信念（Neg）に大きく依存することが示された。また、GC 来談者の心配や侵入思考といった精神障害に関するメタ認知状態は、一般成人と比較し低いことが明らかとなった。

本研究結果は、GC 来談者が抱く不安への新たな心理社会的支援に対する GC 手法開発の一助となると同時に、将来的には、遺伝リテラシーの向上を目指しどのような取り組みが必要であるかについて、メタ認知的観点から考察する基礎資料となるものである。